

こうかい ひこうかい べつ 公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 部分公開 ☐ 非公開
---------------------------	--

だい かい は ま ま つ し が い こ く じ ん し み ん き ょ う せ い し ん ぎ かい かい ぎ ろ く
第7回浜松市外国人市民共生審議会会議録

1 かい さい に ち じ れ い わ お ん が つ に ち も く ぐ ん じ ゃ む じ ゃ む じ ゃ む じ ゃ む
開催日時 令和7年2月27日(木) 午後6時00分から午後7時30分

2 かい さい ば し ょ は ま ま つ し や く し ょ ほ ん か ん かい ち ょ う ぎ し つ
開催場所 浜松市役所 本館5階 庁議室

3 し ゅ つ せ き じ ょ う き ょ う
出席状況
い い ん アルバレズ アントニ
グエン ティ タン トウイ
クマラプラタマ
シム キュマン
ただ お 只尾 ジェニファー
た ん の き よ と 丹野 清人
(け い し ょ う り ゃ く ご じ ゅ う お ん じ ゅ ん)
(敬称略・五十音順)
し ゅ る じ ゃ こと さい か か ち ょ う ま つ い よ し か ず
事務局 国際課 課長 松井 由和
こと さい か か ち ょ う ほ き ふ る ほ し ひ ろ き
国際課 課長補佐 古橋 広樹
こと さい か い っ ぱ ん し ゃ く い ん や ま む ら か ほ
国際課 一般職員 山村 果穂

4 ぼ う ち ょ う し ゃ に ん い っ ぱ ん に ん ほ う だ う に ん
傍聴者 1人(一般:1人、報道:0人)

5 ぎ じ な い ょ う
議事内容
(1) ち ゅ う か ん と り ま と め ほ う ぐ こ く て い し ゅ つ
(1) 中間とりまとめ報告の提出について
(2) た ょ う せ い い ふ ん か そ う ぞ う ち い き か つ せ い か
(2) 多様性を生かした文化の創造・地域の活性化について

6 かい ぎ ろ く さ く せ い し ゃ こ 国 際 課 や ま む ら か ほ
会議録作成者 国際課 山村 果穂

7 き ろ く ほ う ほう は つ げ ん し ゃ よ う て ん き ろ く
記録の方法 発言者の要点記録
ろ く お ん う む あり なし
録音の有無 (有) 無

8 かい ぎ き ろ く
会議記録

1 開会・挨拶 《国際課長挨拶》

2 中間とりまとめ報告の提出について（報告）

《事務局から説明》

- ・第6回審議会までに話し合った内容を中間とりまとめ報告としてまとめ、2024年12月23日に企画調整部長に提出した。
- ・3つの諮問テーマについて話し合った内容を次の提言としてまとめている。
テーマ1 防災・危機管理体制の強化
：外国人市民が確実に災害に備え、支援者として活躍するための体制づくり
テーマ2 外国人の子育て世代への支援、子供の健やかな成長のための支援
：外国人の親子が地域との繋がりを感じられる子育ての環境づくり
テーマ3 多様性を活かした文化の創造、地域の活性化
：誰もがコミュニティに参画し活躍できる機会の提供の促進
- ・今後の審議会ですさらに話し合いを進め、市長に提言書として提出する。
- ・テーマ3について特に話し合いの時間が足りていないため、より具体的な提言にしていけるために本日も意見をいただきたい。

《委員了承》

3 多様性を生かした文化の創造・地域の活性化について

《事務局からこれまでの話し合いの内容について説明》

- ・第5回の審議会では、委員の皆さんが活躍するようになったきっかけについて伺った。人とのつながりが活躍に結び付いてきたという共通点を見つけたことができたと考えている。
- ・第6回の審議会では、日本人・外国人を問わず、より多くの人の参画が多様性を生かしたまちづくりのために重要だという意見や、外国人市民が主催するイベントが同じ国籍のコミュニティ内で完結してしまうことが多いため、日本人やその他の国籍の外国人市民にも参加してもらえるように工夫できるとよいといった意見があった。
- ・これらの内容も踏まえ、より具体的な取り組みに落とし込めるように話し合いを進めたい。

《委員了承》

丹野委員長：

先日、浜松市地域日本語教育総合調整会議に参加しました。その会議で、以前は職場で日本語を話す環境があったけれども、近年は外国人労働者が日本に増えたことで外国語でも話すことができる職場が増え、せっかく日本語を勉強したのに使うことがないという人の話が出ていました。そのような人たちにとっても、公民館、協働センター、自治会など地域での活動で日本人とつながることができる仕掛けがあるとよいですね。新しい事業を始めるだけではなく、今ある事業を生かす、効果を高めるような取り組みができれば十分だと思っているのですが、どのよう

な取り組みができそうか、ご意見をいただければと思います。

シム委員：

私は、子どもが幼稚園の頃サッカーを始めてから、サッカー教室やサッカー少年団で知り合った日本人の親と日本語で話す機会が増えました。また、子どもが小学校に入ってから指導者のライセンスを取得して、応援するだけでなく一緒に活動するようになったことで、さらにつながりが深まりました。

外国人市民は増えていますが、PTA活動をしている外国人は少ないと思います。私はPTAの会長になったときは、外国人の親にも電話で参加を促した結果、委員になってくれた人がいました。活動について理解できればやりたい気持ちを持つ人もいると思うので、参加の呼びかけや説明ができるとういと思います。

浜松市には韓国人コミュニティはあまりありませんが、自分の国のコミュニティにとどまっているだけではなく、他のコミュニティにも参加するほうが自分にとってもプラスになると感じています。外国人市民側も、自分から一歩踏み出す必要があると思います。

丹野委員長：

何か活動したり、組織に入ったりすると、いろいろなつながりが生まれますね。そのようなあらゆる機会を上手くつなげていくことが重要だと思います。

只尾委員：

フィリピン人を対象として、年金制度や在留資格について講座を開催しました。周知をしても参加者があまり集まらないこともありますが、「通訳がいること」を打ち出したところ、20人を超える参加者を集めることができました。ある程度日本語が話せる参加者からも「通訳がいたのでよく理解できた」「友達にも伝えたい」「またイベントがあったら教えてほしい」といった意見をいただけて嬉しかったです。いろいろな研修やイベントを開催しても、イメージがわからないと興味をもってもらいにくいと感じているので、この講座をきっかけに他のイベントに来たり、口コミを広げたりしてもらえないか期待しています。これからも、日本で暮らしていくために必要な知識を伝える講座を開催していきたいです。

丹野委員長：

この講座の例のように「自分の役に立った」経験があると、活動する側に回ることにつながりそうですね。年金や社会保障など、日本人にとっては当たり前のことでも、外国人にとっては自国とは異なるので、丁寧に伝える機会を積極的に設ける必要があります。また、そのような知識を伝えるためには、年金や社会保障などの仕組みを理解して、きちんと通訳できる人も必要です。そのような講座の動画を撮影して、いつでも見られるように発信すると効果的だと思います。

クマラプラタマ委員：

浜松国際交流協会（HICE）主催のグローバルフェアなどのイベントには、いろいろな国の外国人や日本人が集まっています。共通する言語は日本語なので、日本語を話す機会になっていると思います。グローバルフェアの企画で、日本の自転車のルールを日本語で学ぶものがありま

した。私はルールについて詳しく知らなかったので、役に立ちました。このような企画や食べ物など、何か目的があれば人はイベントに集まるので、そこで日本語を話す交流ができるとよいと思います。料理のイベントを開催したとき、日本人とインドネシア人が半数ずつくらい参加してくれましたが、日本人と一緒に料理するなかで、日本語で会話ができました。

丹野委員長：

イベントのテーマそのものを「日本語を使うこと」にするというのも、これまでにあまりなかった発想で、面白いですね。

グエン委員：

日本語を話すために一番よいのは、日本人と会話をするのだと思います。
先日、浜松まつり参加のチラシが来ました。私は一度参加したことがあるのですが、まだ参加したことがない外国人市民にとっては、日本語がわかるか不安だったり、服装など何を用意したらよいのかわからなかったりして、行きたくても行けない人もいます。でも、もし町内の方から「参加できますよ」といった声かけや、簡単な説明があって不安が解消されたら、行く人もいます。

アントニ委員：

PTA活動は、任意とされながらも、参加するのが当たり前になっています。ペルーにはPTAはなく「母の会」のような組織があり、みなでお金を出し合って物や衣装を作るなど、学校行事の運営をしています。そのような文化の違いからも、PTAに参加しなければならない意味がわからない外国人もいると思います。外国人市民にも参加してもらうには、PTAの目的や具体的な内容について説明することが重要です。また、参加したくなるような取り組みがあるとよいです。

シム委員：

これから外国人の親子が増えていくなかで外国人がPTA活動に参加しないと「なぜ外国人は参加していないのか」といった話にならないか、心配しています。私は今年PTA会長として活動していますが、声をかけた外国人の親が活動に参加してくれたこともあったので、声かけや説明は重要だと思います。

丹野委員長：

外国人市民に活動に参加してもらうには、日本人側からの働きかけや、前提知識の説明が重要ですね。PTA活動も一例ですが、学校で求められることの必要性を理解してもらうためにも、情報を多言語で伝えられるとよいです。そのためのオリエンテーションの制度化を検討してもよいと思います。

アントニ委員：

浜松まつりについて、地域に帰属意識はあるのですが、キリスト教徒ということもあって、積極的に参加したいと思いません。参加している外国人に理由を尋ねたことがありますが、「子どもが参加するから」という人が多かったです。

ただ おい いん
只尾委員：

娘が小学生だったとき、子ども会で浜松まつりに参加したので、私も参加しました。用意は大変でしたが、それまであまり関わる事がなかった地域の人が歓迎してくれたことが嬉しかったです。このような経験がある外国人が増え、外国人も参加していることが伝われば、参加を考える外国人の輪は広がっていくと思います。

クマラプラタマ委員：

子どものためなら、億劫なことも頑張れるというのはよくわかります。子どもがずっと日本で暮らしていくことを考えると、日本の文化を学ぶことも必要だと思います。

たんの いんちよう
丹野委員長：

浜松市多文化共生センターは、地域の多文化共生のために積極的に取り組んでいる自治会を紹介する「はままつ街のかわらばん おとなりさんは外国人！」を発行しています。このように、シム委員のPTA会長の経験や、浜松まつりに参加した経験などを紹介する取り組みはいかがでしょうか。外国人市民に情報発信するのも重要ですが、日本人市民に伝えることのほうがより重要だと思います。外国人市民が活動に参加して活躍していることを知ると、外国人市民と一緒に活動するためにはどうしたらよいのか考えるなど、次のステップにつながると思います。

アントニ委員：

浜松まつりは伝統的なお祭りなので難しいと思いますが、各町の風揚げや屋台の一部に外国人コミュニティが参加できれば、参加したい、見に行きたい外国人市民は増えるのではないのでしょうか。自分達のコミュニティが参加していると誇らしいですし、自分達も同じまちをつくっているという帰属意識も高まると思います。

ペルー人コミュニティが開催するイベントに日本人の妻と参加したことがあります。日本人は少し入りにくい雰囲気でした。各店舗に日本語の表示をつけたり、一度イベントでやったことがあるのですが「日本人はスペイン語で注文すると50円引き」など、交流が生まれるような仕掛けづくりができるとよいと思います。

ただ おい いん
只尾委員：

グローバルフェアの企画で、日本人のフィリピン語スピーチコンテストを開催しました。日本人に教わるばかりではなく、自分達が教える側になってみて、難しさに気が付きました。

たんの いんちよう
丹野委員長：

そのようなイベントやセミナーに参加してもらうのに加えて、主催者側として活動してもらうためにはどのようにしたらよいと思いますか。

アントニ委員：

イベントを開催していると「私もやってみたいけれどどうしたらよいか」と聞いてもらえることがあります。このような、やりたい気持ちのある人を複数人集めて、小さなことから一緒にや

ることができると思います。

ペルーの国民性では、一人でやるよりも複数人でグループを組んでやるほうが、その関係者が集まりやすく上手くいくと感じています。ブラジル人も同じような印象があります。多文化SHIZUカップを開催したとき、ベトナムは影響力のある人が一人声をかければ人がたくさん集まっていたように見えたので、違いを感じました。

グエン委員：

ベトナム人はサッカーが大好きなので、たくさん参加したところもあると思いますが、日本語がわからない人にとっては、日本語がわかってサポートしてくれるリーダーのような人がいると安心して参加できると思います。

只尾委員：

浜松市はフィリピン人コミュニティの数が少ないです。活動する人が増えて、いろいろなコミュニティが増えるとよいと感じます。

丹野委員長：

イベントの事前の広報や優良事例の発信の方法は、文化的背景の違いに合わせて変える必要があるのかもしれないね。

アントニ委員：

「サイレントオークション」の取り組みが面白いと思っています。起業家などの独自の商品を出して、興味を持った人が実際に値段をつけて落札するものです。起業や個人事業をしている外国人で、自分のサービスや商品を広く発信したい人はたくさんいると思うので、外国人市民を対象として開催できれば、反響は大きいと思います。

例えば、私の経営するペルー料理屋の5,000円の商品券を無償で出品し、それを見に来た人が、3,000円で入札、落札するとします。私は展示を見に来た人にお店のことを知ってもらえる、落札した人は商品券をお得に買える、オークション主催者は落札金額が手に入るの、それぞれにメリットがあります。グローバルフェアなど既存のイベントの一部で、小さく始めてみるのもよいと思います。

丹野委員長：

今回の審議会では、引き続きテーマ3について話し合いができればと思います。今回の審議会では話し合いができなかった優良事例の発信方法や、コミュニティへの参画促進についてさらに深掘りしていければと思いますが、いかがですか。

《委員了 承》

4 閉会